

徳島文化芸術ホール(仮称)整備に係る発掘調査結果について

1. 調査概要

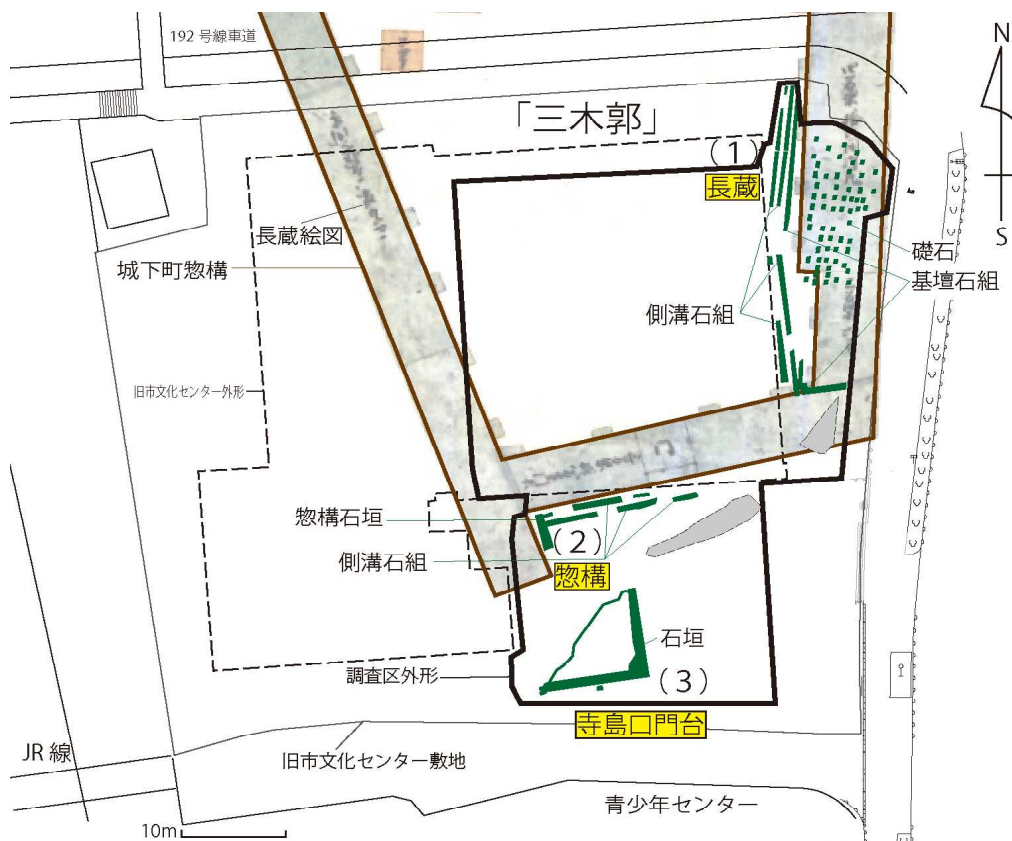
遺跡名：徳島城跡徳島町城内地点
所在地：徳島市徳島町城内1-20ほか
調査面積：1,790㎡
調査期間：令和3年4月1日～令和4年1月31日

2. 遺跡概要

徳島城は、天正13(1585)年に蜂須賀家が阿波国の領主となって築城した、本丸をはじめとする「城山」と御殿や三木郭(城の区画)からなる「連郭式平山城」であり、発掘調査区域は、徳島城の南東の一角に位置し、江戸時代の絵図から「三木郭」や城下町徳島の出入口のひとつである「寺島口」にあたる。

3. 調査成果

- (1) **長蔵**(三木郭の外周に建てられた長屋造りの藩の米蔵)
調査区東側で、長蔵の基礎となる「礎石」、土台となる「基壇石組」、雨水を受ける「側溝石組」が検出され、「礎石」は長蔵北側を中心に約40個、「基壇石組」は礎石西側に南北約25m、「側溝石組」は、基壇西側で南北約20m。
- (2) **惣構**(城下町や徳島城を石垣で囲い込んだ外郭)
三木郭の南西で、惣構の「石垣」の一部が南北約3m、更に、惣構の石垣に直交して東側へ長蔵の「側溝石組」が約13mにわたり検出。
- (3) **寺島口門台**(寺島口の櫓門の土台)
寺島口門台の最下段の「石垣」が高さ約1m、東西約10m、南北約9mにわたり検出。門台北西側の石垣は、現在の排水管により攪乱。
- (4) **遺物・その他遺構**
江戸時代の瓦、陶磁器、土器等が出土。その他遺構として溝、土坑等が検出。



(1) 長蔵 (2) 惣構 (3) 寺島口門台 (上空から)



(2) 惣構及び長蔵側溝石組 (南西から)



(1) 長蔵 (南から)



(3) 寺島口門台 (東から)



出土遺物 (軒丸瓦・土師質土器皿)

